

# 2025年8月

# アジア・パシフィック経済マンスリー

第一生命経済研究所 経済調査部  
主任エコノミスト 阿原 健一郎 (TEL : 050-5470-4868)

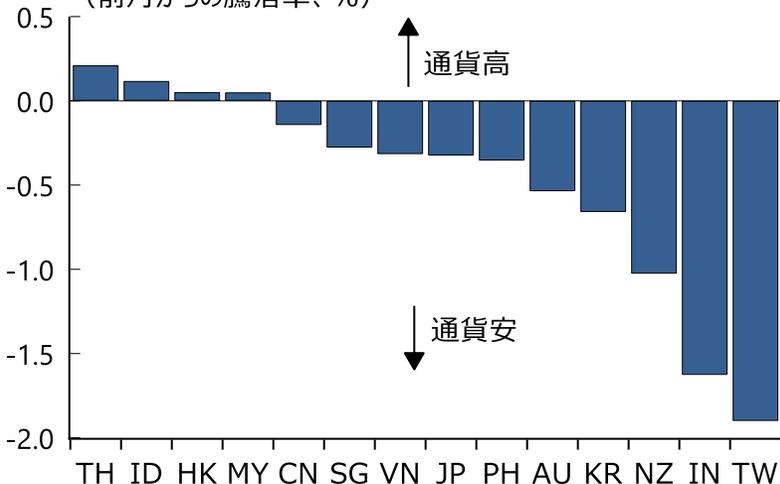


本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任を負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

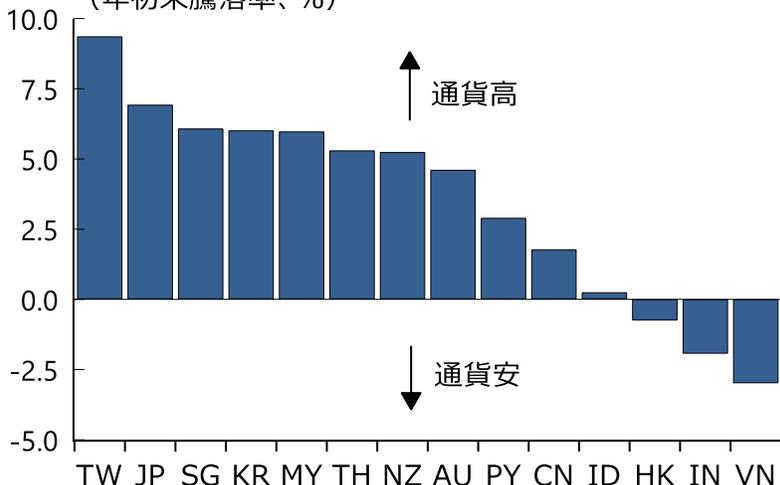
# 金融市場サマリー

## 為替

(前月からの騰落率、%)

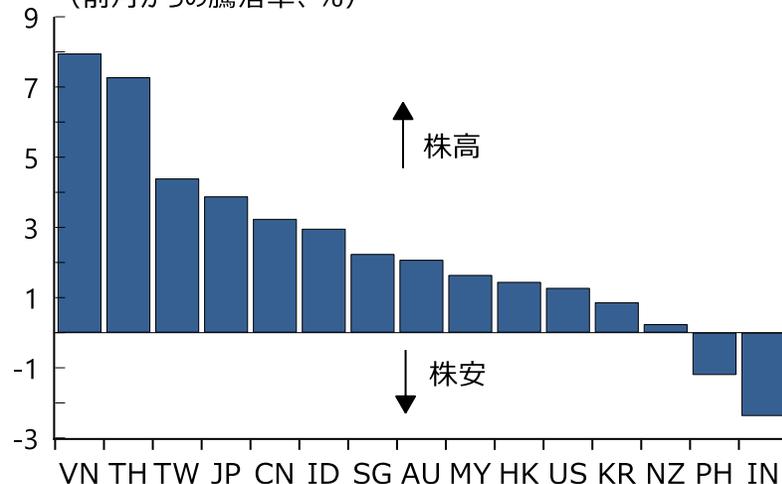


(年初来騰落率、%)

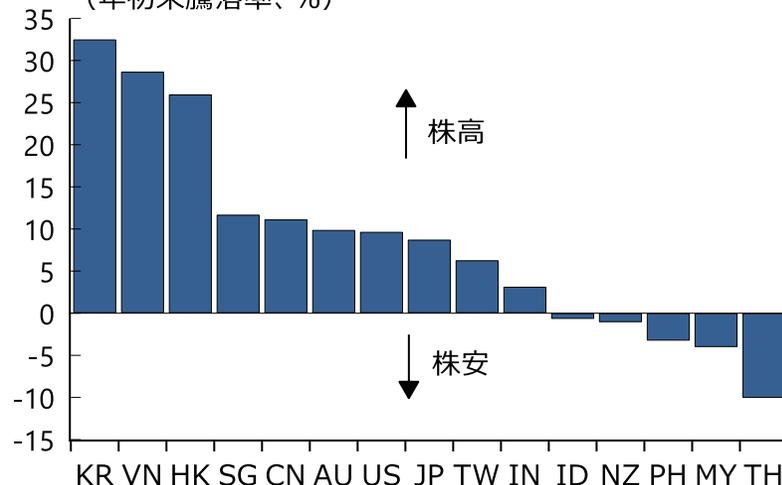


## 株価

(前月からの騰落率、%)

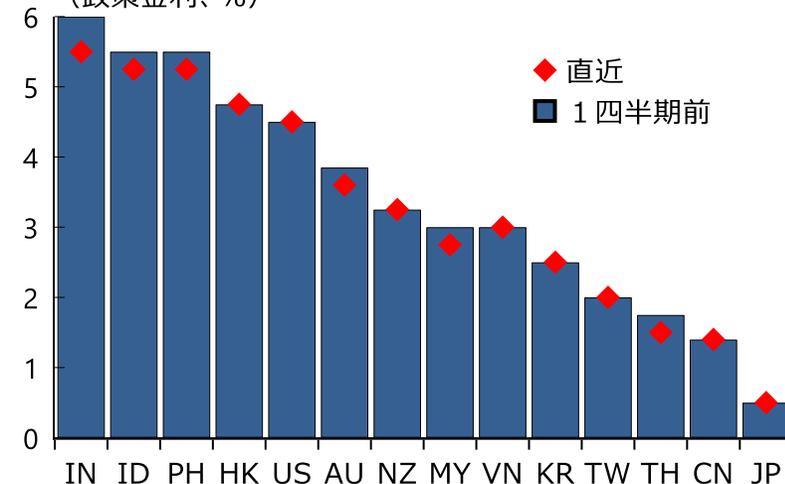


(年初来騰落率、%)



## 政策金利

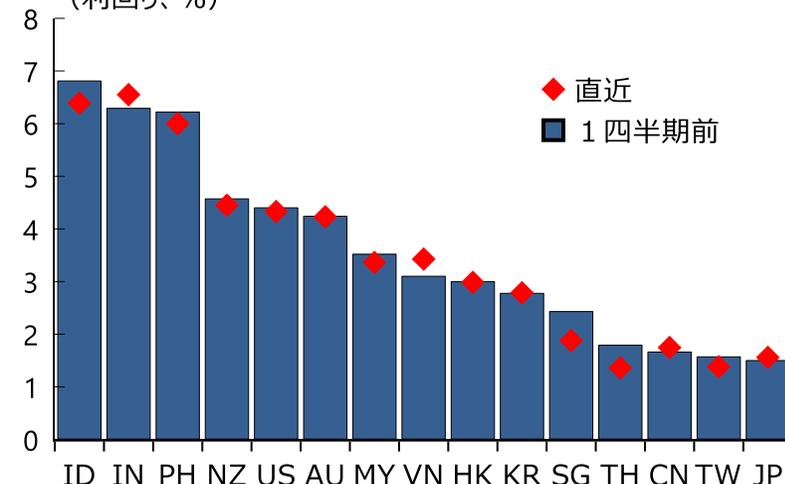
(政策金利、%)



(注) 直近は8/15日時点。

## 10年国債利回り

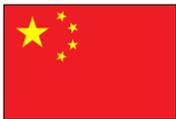
(利回り、%)



(注) 直近は8/15日時点。

(注) 前月からの騰落率は7月平均と8/15日までの8月平均との比較、年初来騰落率は2024年終値と8/15日終値との比較。  
為替は対米ドルの名目為替レート、株価は各国の主要株価指数。各国コードは、AU=オーストラリア、CN=中国、HK=香港、IN=インド、ID=インドネシア、JP=日本、KR=韓国、MY=マレーシア、NZ=ニュージーランド、PH=フィリピン、SG=シンガポール、TW=台湾、TH=タイ、US=米国、VN=ベトナム。

(出所) Macrobondより第一生命経済研究所作成



# 中国

## ■ PMIは再び縮小

7月の財新製造業PMIは49.5と、前月(50.4)から再び縮小に転じた。生産指数が縮小に転じ、ヘッドラインを押し下げた。

## ■ インフレ率はわずかに鈍化

7月の総合CPIは前年比+0.0%と、前月(同+0.1%)からわずかに伸びが鈍化。食料価格が低下し、総合CPIを押し下げた。

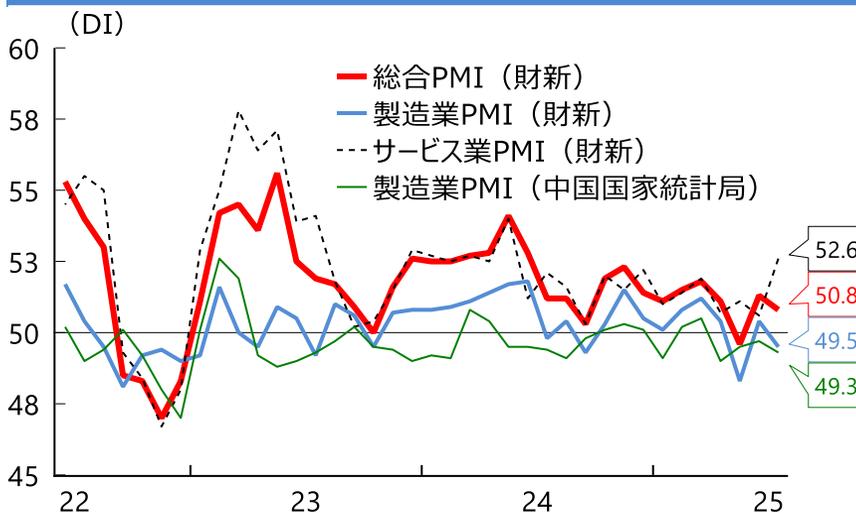
## ■ 消費は増加ペースが鈍化

7月の小売売上高は前年比+3.7%と、前月(同+4.8%)から鈍化。不動産販売は同▲4.8%と減少が続く。

## ■ 輸出は引き続き増加

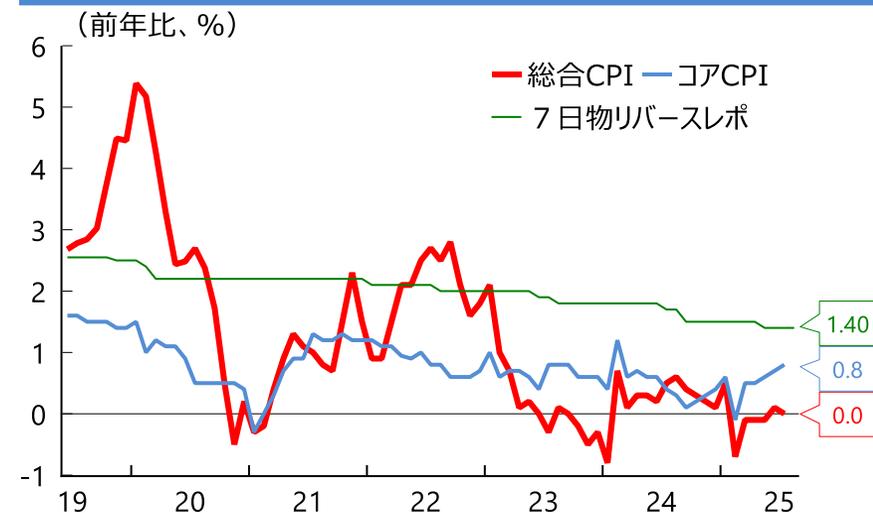
7月の輸出(速報値)は前年比+7.2%と、前月(同+5.6%)に続き増加。仕向け地別では、米国向けが同▲21.7%と、前月(同▲16.1%)から減少ペースが加速したもの、ASEAN向けが同+16.6%、EU向けが同+9.2%、インドが同+9.8%と、米国以外への輸出が引き続き増加した。レアアースの7月の輸出量は同+21.4%と、前月(同+60.3%)から鈍化する見通し。一方の輸入も同+3.5%と、前月(同+0.8%)に続き増加。大豆や銅を中心に輸入が増加した。

## PMI



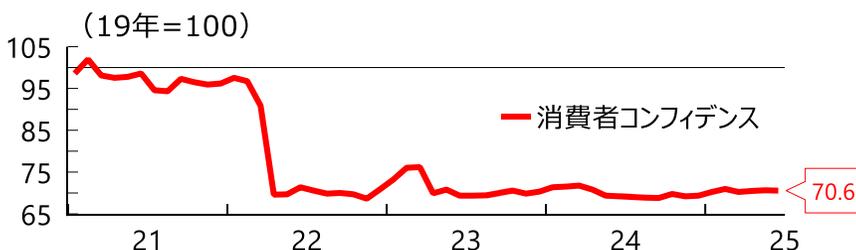
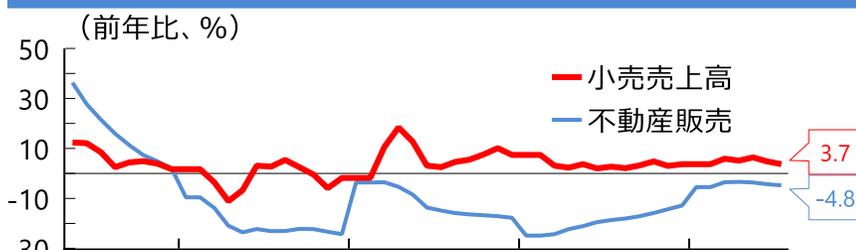
(注) 直近は7月。

## インフレ率と主要政策金利



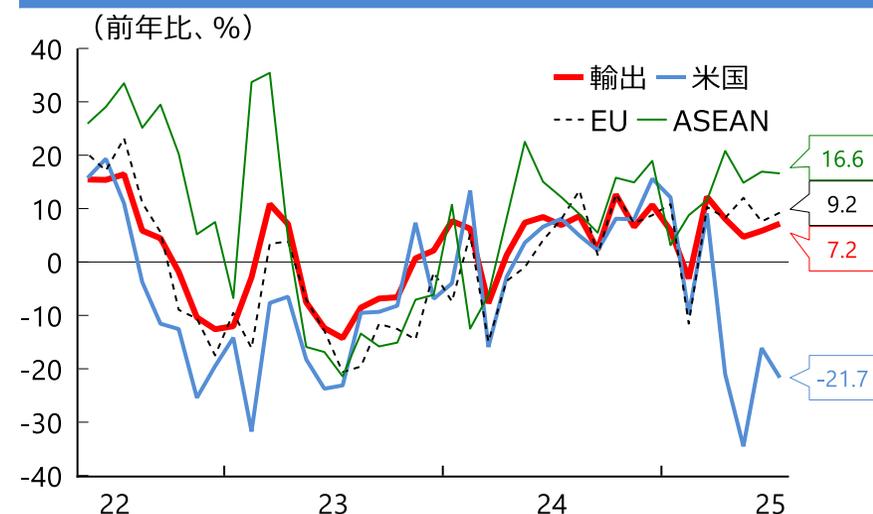
(注) 直近は7日物リバースレポが8/15日、その他が7月。

## 消費



(注) 直近は消費者コンフィデンスが6月、その他が7月。不動産販売は面積ベース。

## 輸出入



(注) 直近は7月(速報値)。米ドル建ての輸出額。



# インド

## PMIは引き続き拡大

7月の総合PMIは61.1と、前月（61.0）に続き拡大。製造業PMIは59.1と、前月（58.4）から拡大ペースが加速。新規受注指数の拡大ペースが加速し、ヘッドラインを押し上げた。

## 総合CPIは野菜価格を中心にさらに低下

7月の総合CPIは前年比+1.6%と、前月（同+2.1%）からさらに鈍化。野菜価格が、異常気象等による昨年の価格上昇の裏要因に加え、今年は生産量が増加したことで引き続き低下、ヘッドラインを押し下げた。

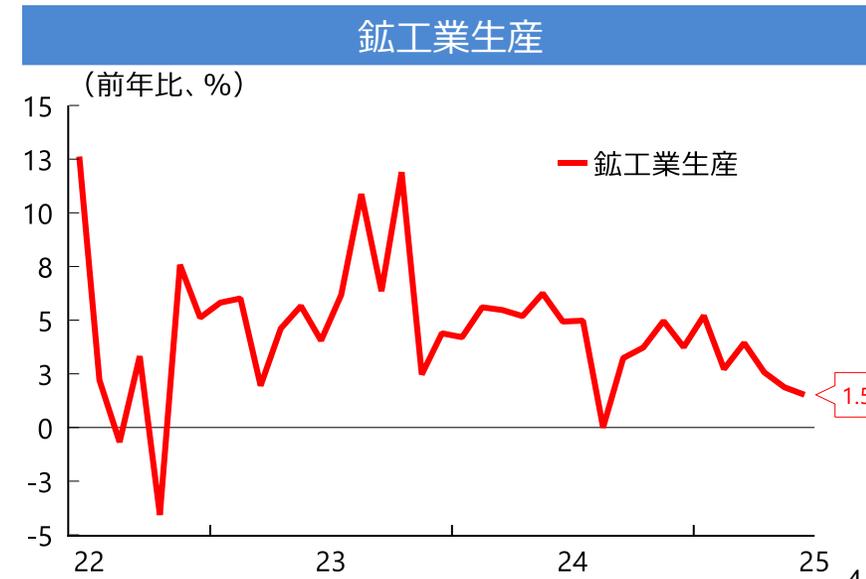
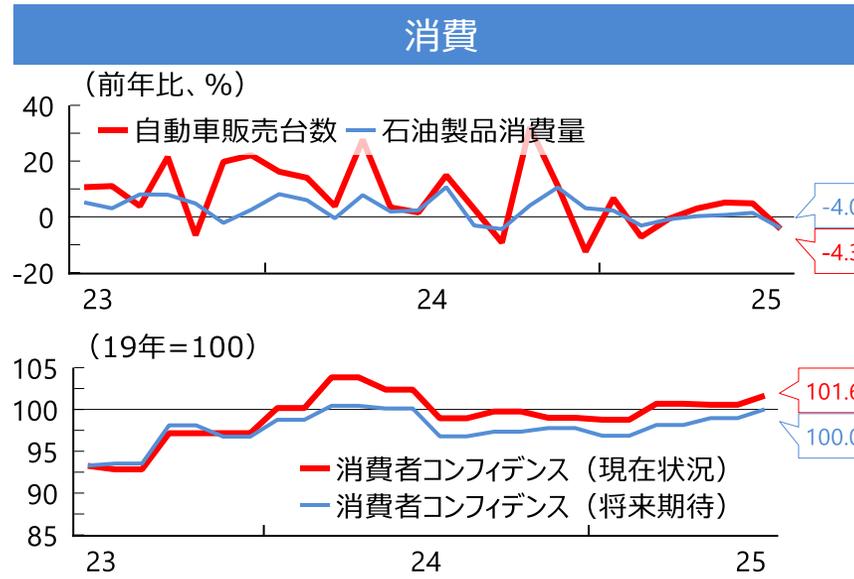
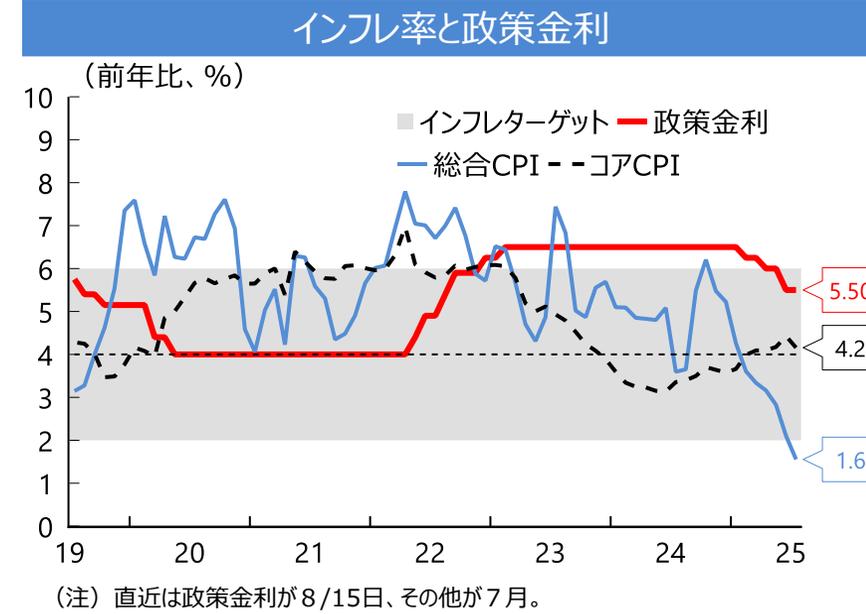
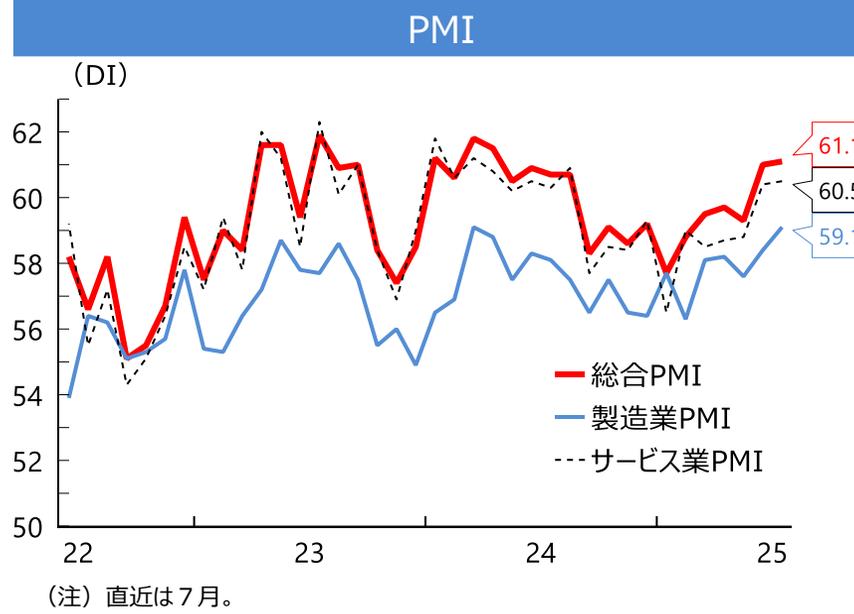
8月6日、インド準備銀行は政策金利の据え置きを決定（5.50%）。据え置きは市場予想通り。背景として、総合CPIは当初の予測を大幅に下回っているが、コアCPIは予想通り4%前後で安定していることに触れ、「過去の利下げの信用市場と経済全体へのさらなる波及効果を見極める」とした。

## 消費は再び減少

7月の自動車販売台数は前年比▲4.3%と、前月（同+4.8%）から減少に転じた。石油製品消費量も同▲4.0%と、前月（同+1.4%）から減少。

## 鉱工業生産は増加ペースが鈍化

6月の鉱工業生産は前年比+1.5%と、前月（同+1.9%）から増加ペースが鈍化。





# 韓国

## ■ PMIは引き続き縮小

7月の製造業PMIは48.0と、前月(48.7)から縮小ペースが加速。新規受注指数、生産指数の縮小ペースが加速し、ヘッドラインを押し下げた。

## ■ インフレ率はわずかに鈍化

7月の総合CPIは前年比+2.1%と、前月(同+2.2%)からわずかに鈍化。原油価格が低下したことで、工業製品等を中心に価格が低下、ヘッドラインを押し下げた。

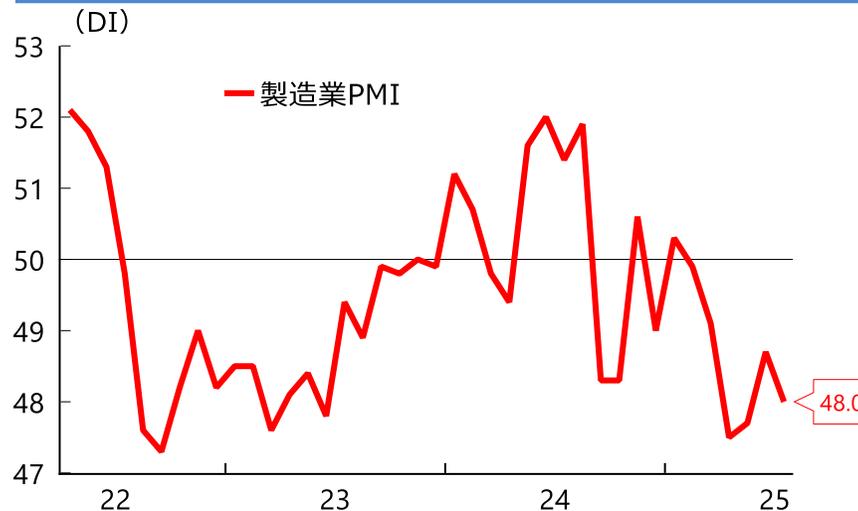
## ■ 消費は小幅に増加

6月の小売売上高、サービス業売上高はともに前月比+0.5%と小幅に増加。7月の消費者コンフィデンスは前月に続き上昇した。7月から全国民に配布を開始した「消費クーポン」や、百貨店等の夏期セールの販促活動等の影響により、消費が増加した模様。

## ■ 輸出は増加

7月の輸出は前年比+5.8%と、前月(同+4.4%)に続き増加。主要品目である半導体が同+31.6%と輸出を牽引した。仕向け地別では、米国向けが同+1.5%と増加に転じるとともに、ASEAN向けが同+10.1%と大きく増加した。

## PMI



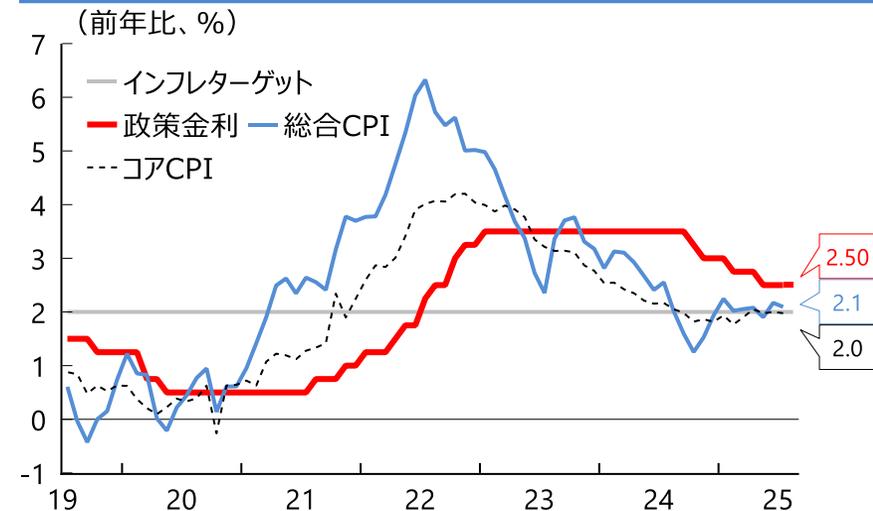
(注) 直近は7月。

## 消費



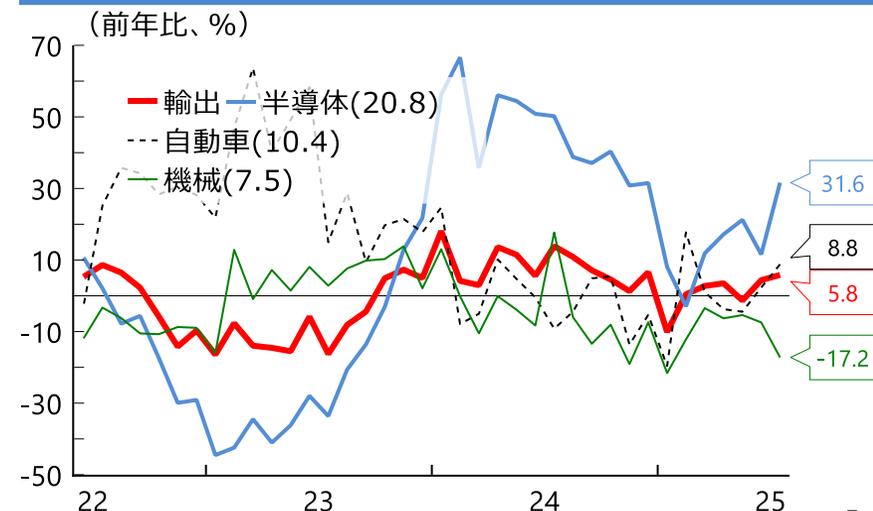
(注) 直近は消費者コンフィデンスが7月、その他が6月。

## インフレ率と政策金利



(注) 直近は政策金利が8/15日、その他が7月。

## 輸出



(注) 直近は7月。米ドル建ての輸出額。( )内は24年輸出額に占める割合。

## ■ PMIは引き続き縮小

7月の製造業PMIは48.0と、前月（49.6）から縮小ペースが加速。エレクトロニクス部門は47.1と、前月（55.5）から大きく悪化し、縮小に転じた。7月には米国の半導体の対中輸出規制が一部緩和されたものの、関税などの貿易環境の不確実性から業況感が悪化した可能性がある。

## ■ インフレ率はわずかに上昇

7月の総合CPIは前年比+1.5%と、前月（同+1.4%）から伸びがわずかに加速。交通・通信の価格低下ペースが鈍化し、総合CPIの押し下げ圧力が弱まった。

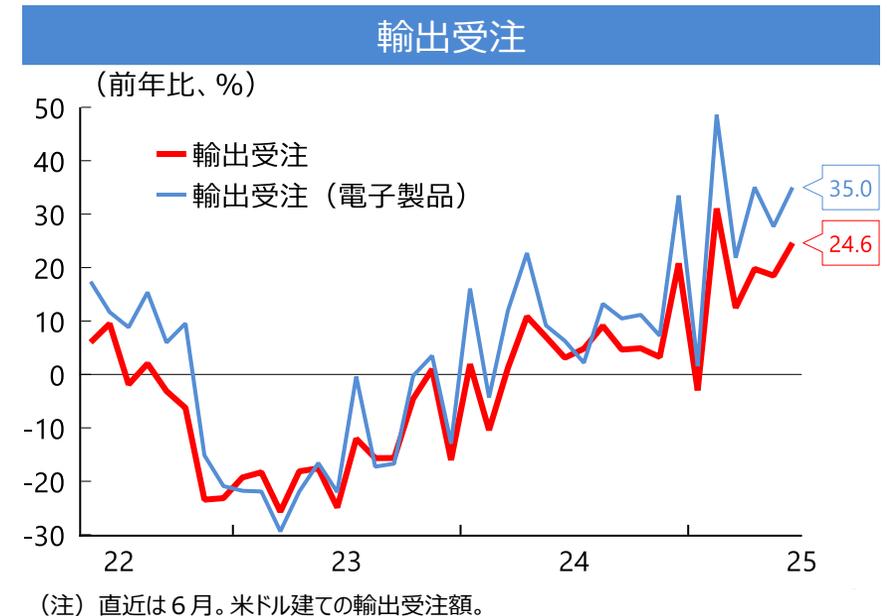
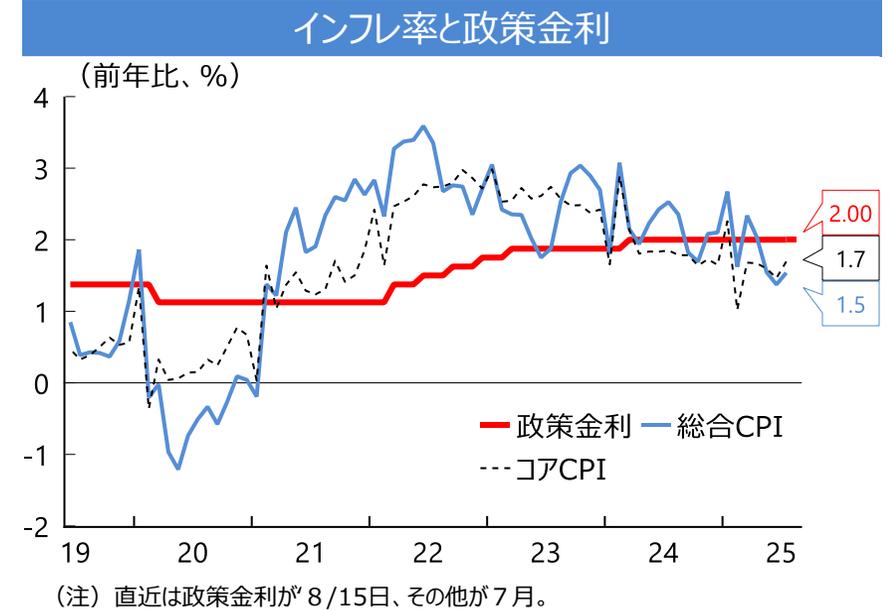
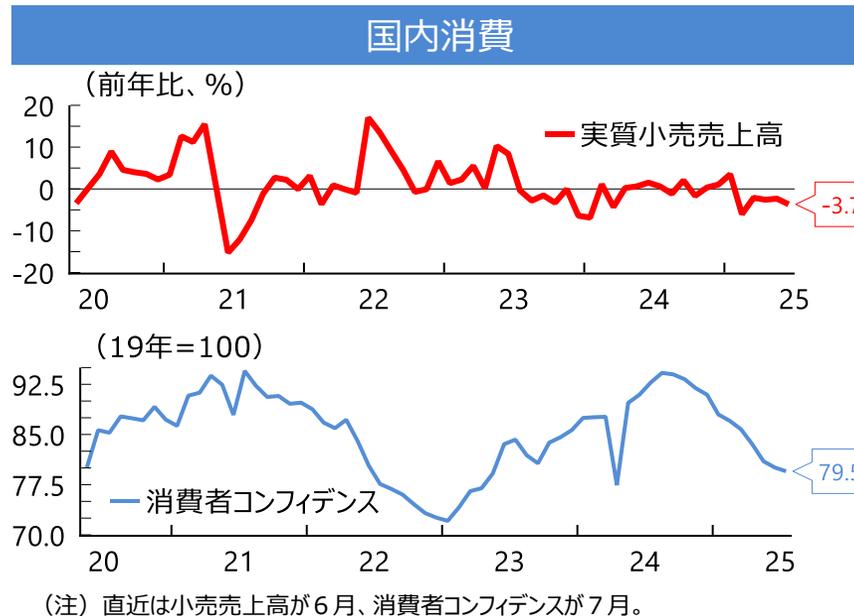
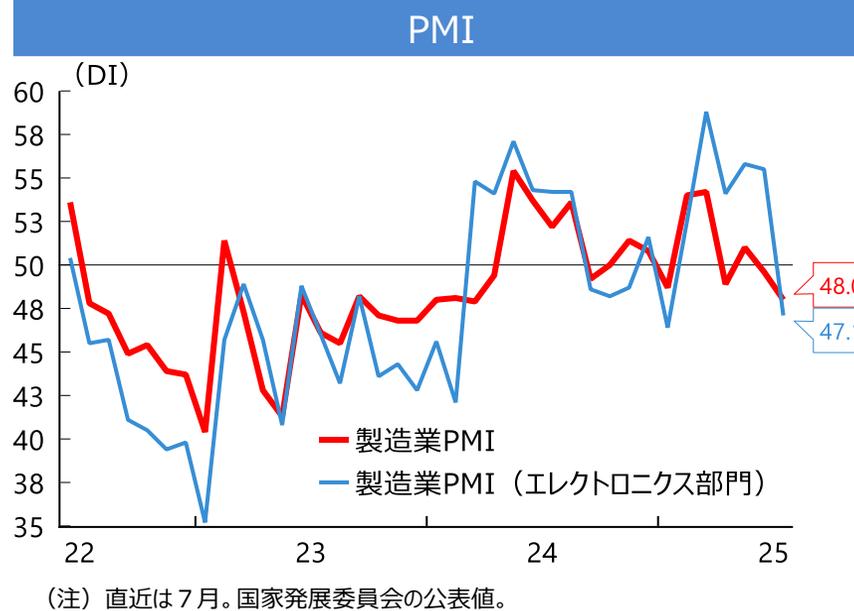
## ■ 消費は引き続き減少

6月の実質小売売上高は前年比▲3.7%と、前月（同▲2.3%）に続き減少。昨年に比べ、休日が少ないこともあり、家電等を中心に販売が減少した模様。

## ■ 輸出受注は引き続き増加

6月の輸出受注は前年比+24.6%と、前月（同+18.5%）に続き増加。電子製品も同+35.0%と引き続き増加した。受注先で見ると、米国が同+34.8%と、前月（同+40.1%）から増加ペースが鈍化したものの、ASEAN（同+41.7%）や日本（同+38.5%）など増加ペースが加速した。

（出所）Macrobondより第一生命経済研究所作成



## ■ PMIは引き続き縮小

7月の総合PMIは49.2と、前月（47.8）に続き縮小。新規受注の縮小がヘッドラインを押し下げた。

## ■ インフレ率は鈍化

6月の総合CPIは前年比+1.5%と、前月（同+1.9%）から伸びが鈍化。電気料金の値上げが引き続きプラス寄与したものの、プラス幅が縮小したことに加え、食料価格の上昇ペースが鈍化したことで、ヘッドラインを押し下げた。

7月31日、香港金融管理局は政策金利の据え置きを決定（4.75%）。前日にFRBがFFレートの据え置きを決定したことを受けて、これに追随した。

## ■ 消費は再び減少に転じる

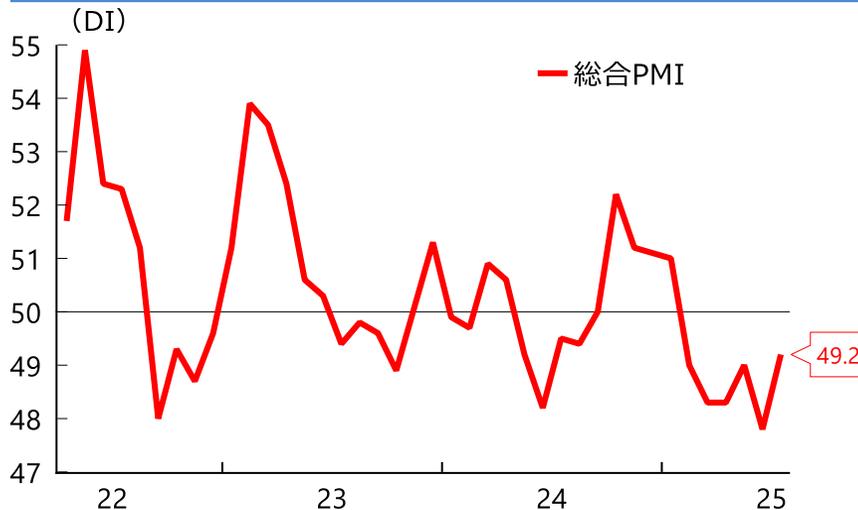
6月の小売売上高は前年比▲0.3%と、前月（同+1.9%）から再び減少に転じた。中国本土の連休が終了し、飲食・観光関連の消費が伸び悩んだ。

## ■ 輸出は増加ペースが小幅に鈍化

6月の輸出量は前年比+10.2%と、前月（同+13.4%）から増加ペースが鈍化。中国向けが同+17.2%と引き続き増加したものの、米国向けの輸出が減少した。

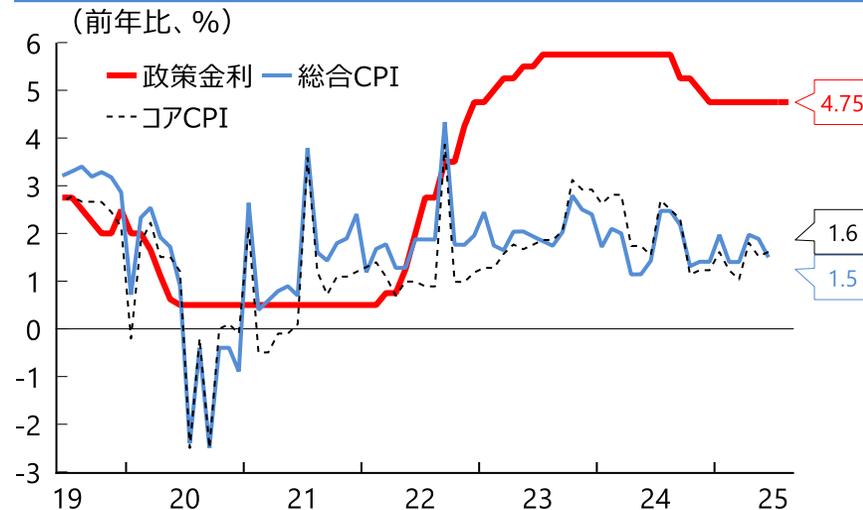
（出所） Macrobond、S&P Globalより第一生命経済研究所作成

## PMI



（注）直近は7月。

## インフレ率と政策金利



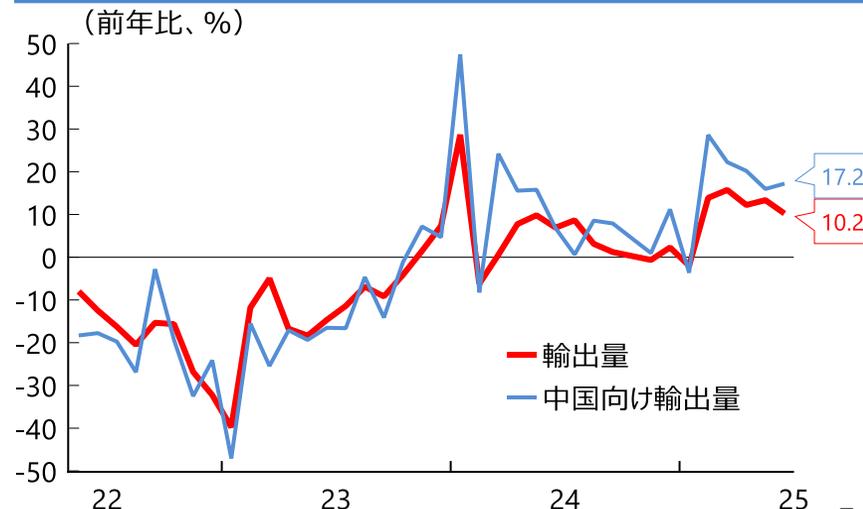
（注）直近は政策金利が8/15日、その他が6月。

## 国内消費



（注）直近は6月。

## 輸出



（注）直近は6月。再輸出を含む輸出量の指数。



# シンガポール

## ■ PMIは再び縮小に転じる

7月の製造業PMIは49.9と、前月(50.0)からわずかに縮小に転じた。一方のエレクトロニクス部門は50.2と、前月(50.1)に続き拡大。新規受注の拡大がヘッドラインを下支えた。

## ■ 金融政策は据え置き

7月30日、シンガポール通貨金融庁(MAS)は、政策為替レートS\$NEERの誘導目標について、据え置きを決定。市場予想は、据え置きとさらなる金融緩和で割れていた。据え置きの背景は、「今年に入り2回の金融緩和を行っており、中期的な物価安定に対するリスクに対し適切なポジションにある」とした。足もとの政策為替レートは141.19で推移。

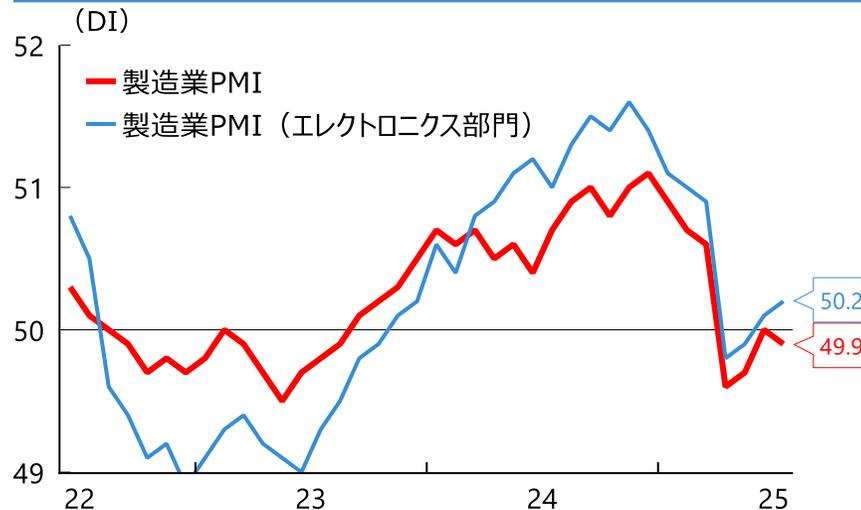
## ■ 消費は引き続き増加

6月の実質小売売上高は前年比+1.7%と、前月(同+2.0%)に続き増加。7月の自動車登録台数も、同+17.6%と引き続き増加した。

## ■ 輸出は増加ペースが鈍化

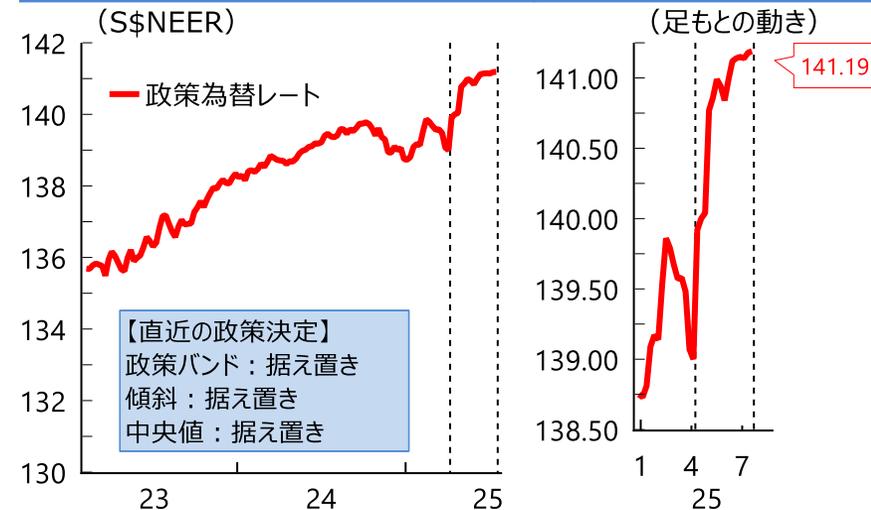
7月の輸出は前年比+2.1%と、前月(同+12.6%)から増加ペースが鈍化。仕向け地別では、米国向けが同▲8.0%と、前月(同+21.5%)から減少に転じた。

## PMI



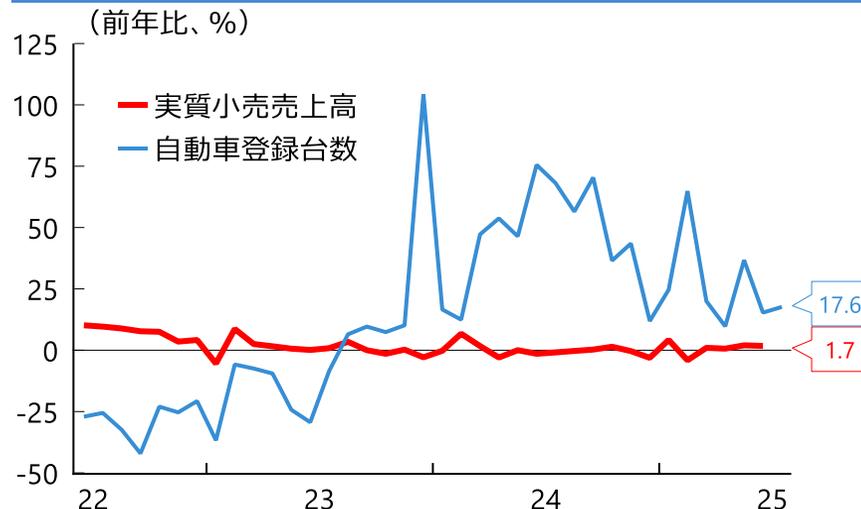
(注) 直近は7月。シンガポール購買・原料管理研究所の公表値。

## 政策為替レート



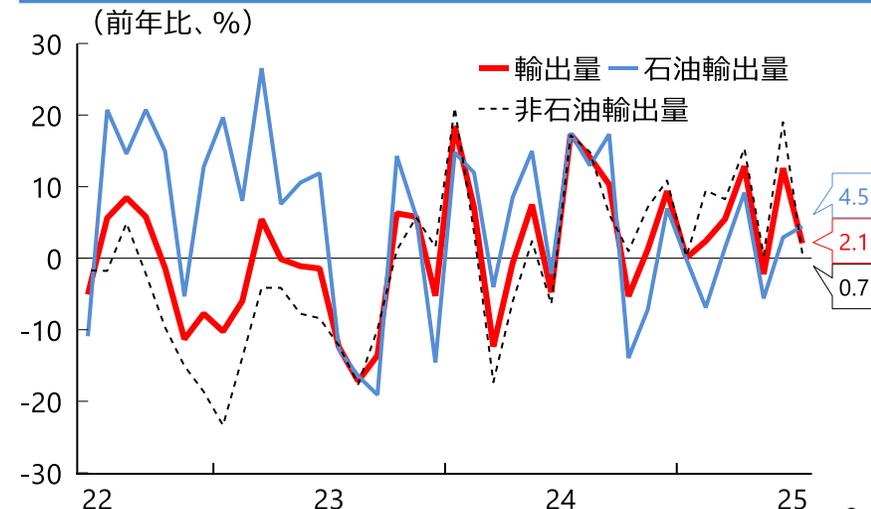
(注) 直近は7/25日の週。破線は直近2回の政策決定タイミング。

## 国内消費



(注) 直近は自動車登録台数が7月、実質小売売上高が6月。

## 輸出



(注) 直近は7月。再輸出を除いた地場輸出の実質輸出額。



# インドネシア

## ■ PMIは縮小ペースが鈍化

7月の製造業PMIは49.2と、前月(46.9)からは縮小ペースが鈍化。新規受注指数、生産指数などが改善した。調査期間中の16日に、米国との関税合意が発表されたことも影響したと見える。

## ■ BIは景気促進の▲25bps利下げ

7月の総合CPIは前年比+2.4%と、前月(同+1.9%)から再び上昇。食料価格の伸びが加速し、総合CPIを押し上げた。7月16日、インドネシア銀行(BI)は利下げを決定(▲25bps、5.50%→5.25%)。市場予想は利下げと据え置きで割れていた。利下げの背景には、インフレ率が目標範囲を下振れる見通しが強まったこと、為替レートの維持、経済成長の促進を挙げている。先行きは、「経済成長を促進するためにさらなる利下げの余地を検討し続ける」とした。

## ■ 消費は引き続き増加

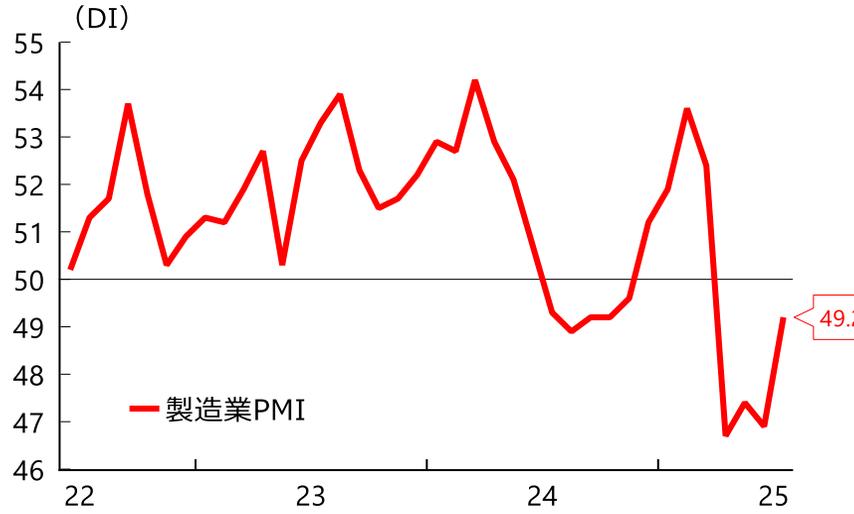
6月の小売売上高は前年比+1.3%と、中銀予測値に届かなかったものの、前月(同+1.9%)に続き増加。7月の中銀予測値は同+4.8%と、大きく増加する見通し。

## ■ 輸出は引き続き増加

6月の輸出は前年比+11.3%と、前月(同+9.7%)に続き増加。

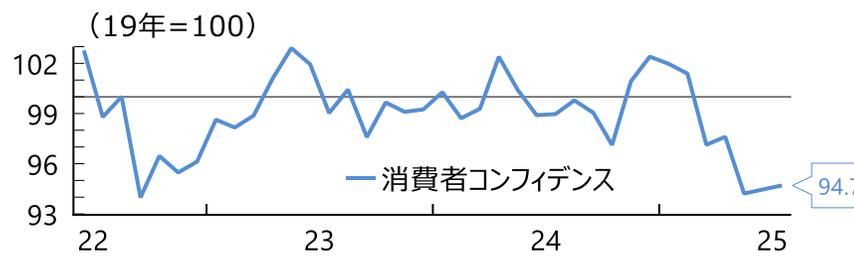
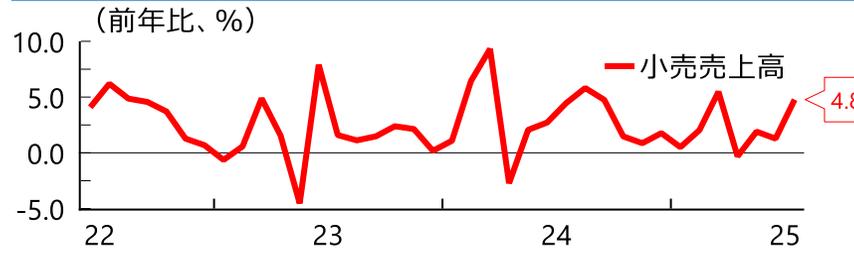
(出所) Macrobond、S&P Globalより第一生命経済研究所作成

## PMI



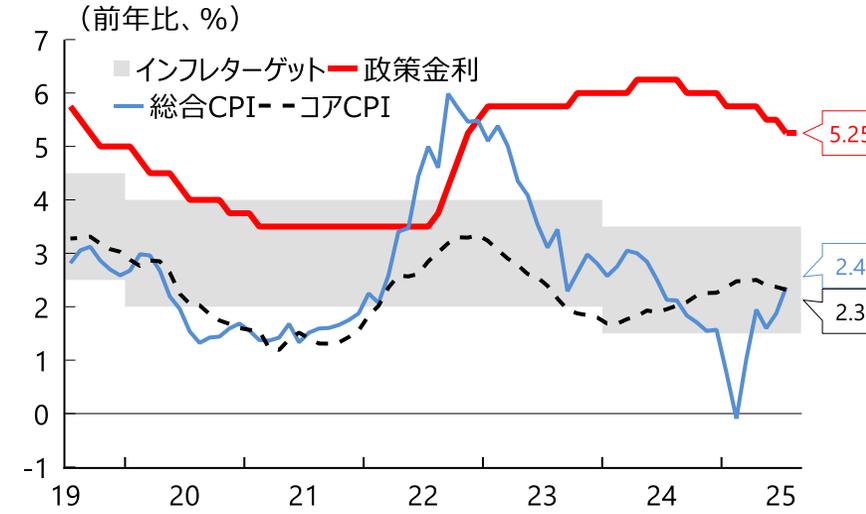
(注) 直近は7月。

## 国内消費



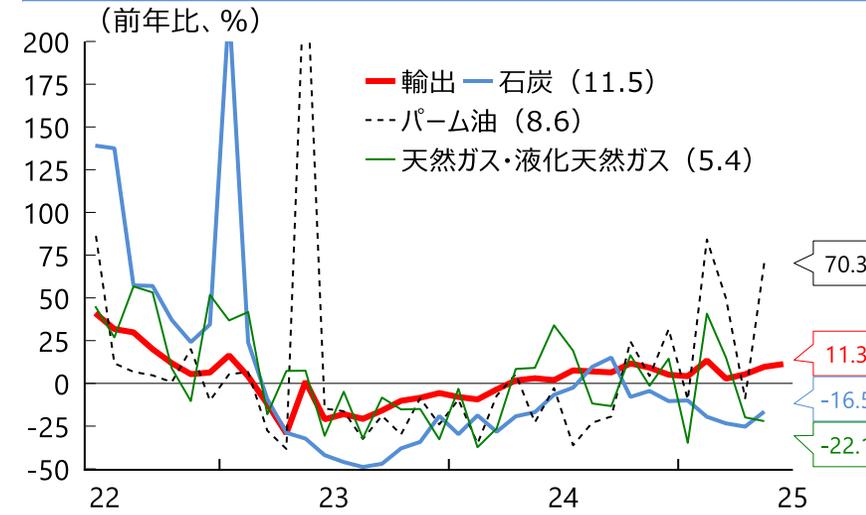
(注) 直近は7月。小売売上高の直近値は中銀予測値。

## インフレ率と政策金利



(注) 直近は政策金利が8/15日、その他が7月。

## 輸出



(注) 直近は輸出が6月、その他は5月。( )内は24年輸出額に占める割合。



# タイ

## ■ PMIは引き続き拡大

7月の製造業PMIは51.9と、前月(51.7)に続き拡大。新規受注指数や生産指数の拡大ペースが幾分加速した。

## ■ BOTは景気下支えの▲25bps利下げ

7月の総合CPIは前年比▲0.7%と、前月(同▲0.2%)から物価の下落ペースが加速。食料価格の上昇が鈍化するも、燃料価格が低下し、総合CPIを押し下げた。8月13日、タイ中銀は利下げを決定(▲25bps、1.75%→1.50%)。利下げは市場予想通り。「金融環境が企業活動に資するものであり、脆弱な層の負担を軽減するものであるよう、金融政策はより緩和的であるべき」とした。

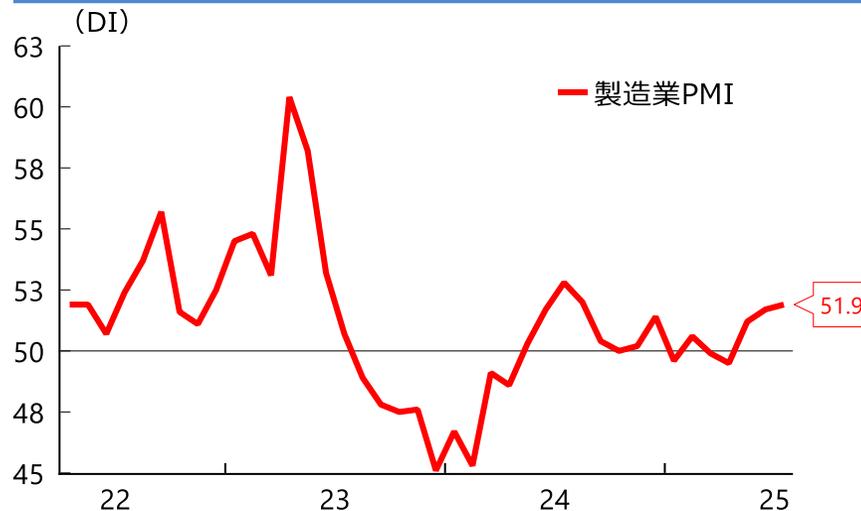
## ■ 消費は引き続き増加

5月の小売売上高は前年比+26.2%と、前月(同+42.0%)に続き増加。6月の自動車販売は同+5.1%と、前月(同+4.7%)から増加ペースが加速。

## ■ タイ中銀は観光客数見通しを引き下げ

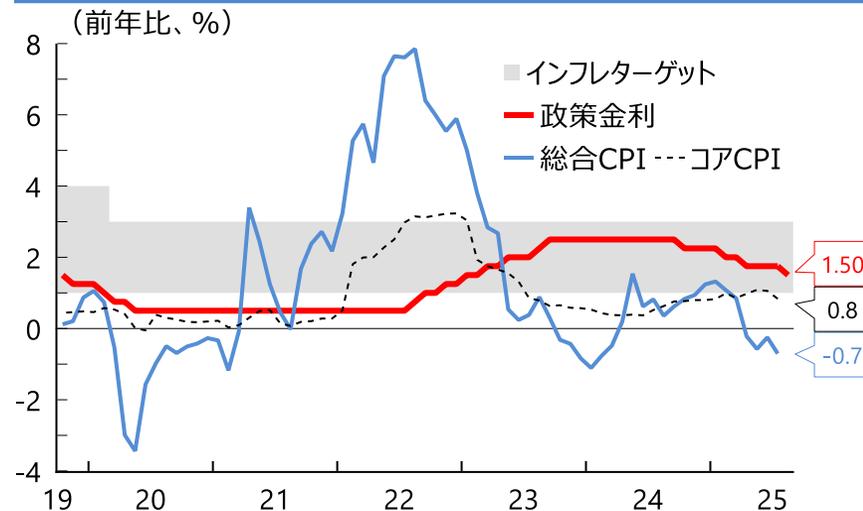
外国人観光客数は7月単月で約261万人、前年比▲15.9%の減少。中国人観光客が引き続き大きく減少した。タイ中銀は、8月6日公表の金融政策レポートで、25年見通しを下方修正(3,750万人→3,500万人)。

## PMI



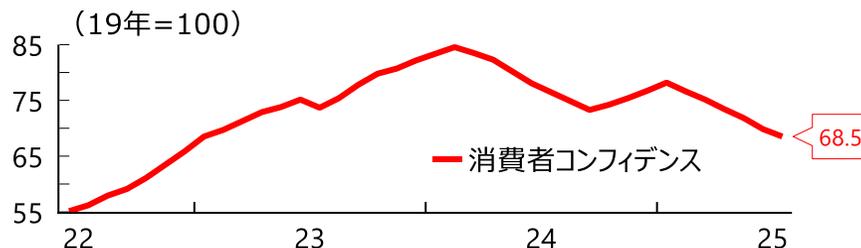
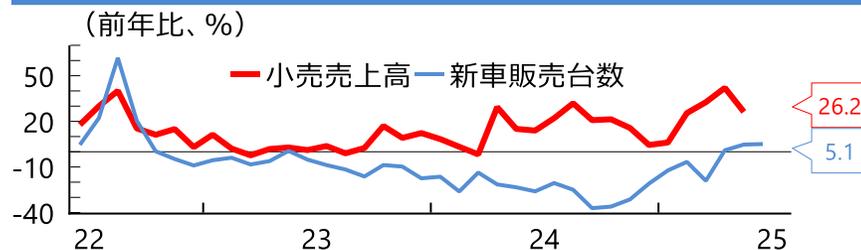
(注) 直近は7月。

## インフレ率と政策金利



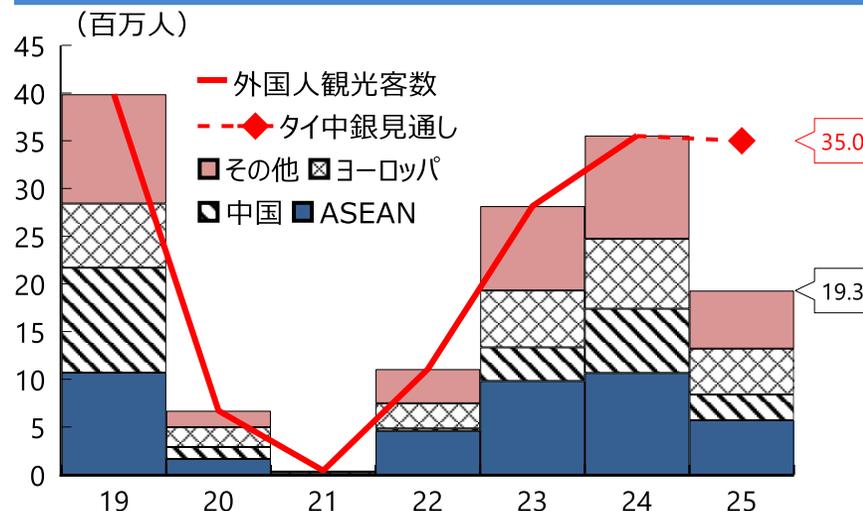
(注) 直近は政策金利が8/15日、その他が7月。

## 国内消費



(注) 直近は小売売上高が5月、新車販売台数が6月、消費者コンフィデンスが7月。

## 外国人観光客数



(注) 25年は7月時点実績。



# フィリピン

## ■ PMIは引き続き拡大

7月の総合PMIは50.9と、前月（50.7）に続き拡大。生産指数の拡大ペースが幾分加速したほか、サプライヤー納期指数の縮小ペースが加速し、ヘッドラインを押し上げた。

## ■ インフレ率はさらに鈍化

7月の総合CPIは前年比+0.9%と、前月（同+1.4%）から伸びが鈍化。引き続き目標レンジを下回って推移している。食料価格の伸びが大きく鈍化したことでマイナス寄与に転じ、総合CPIを押し下げた。コアCPIは同+2.3%と、前月（同+2.2%）からわずかに加速。

## ■ 新車販売台数は増加に転じる

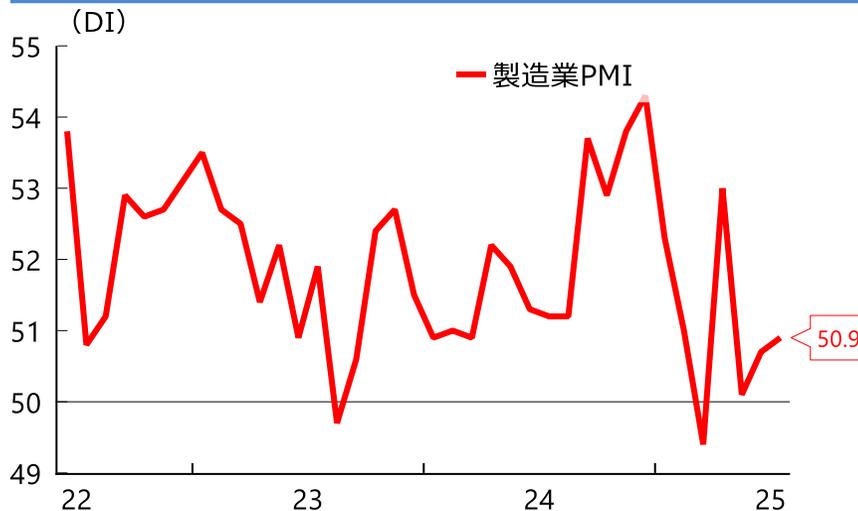
6月の新車販売台数は前年比+3.6%と、前月（▲1.2%）から増加に転じた。商用車、EVを中心に販売台数が増加。

## ■ 輸出は引き続き増加

6月の輸出は前年比+26.1%と、前月（同+15.5%）に続き増加。すべての主要品目で増加ペースが加速した。仕向け地別では、米国向けが同+35.2%と、前月（同+4.1%）から大きく増加。昨年減少していた裏要因に加え、関税適用前の駆け込み輸出が見られた模様。

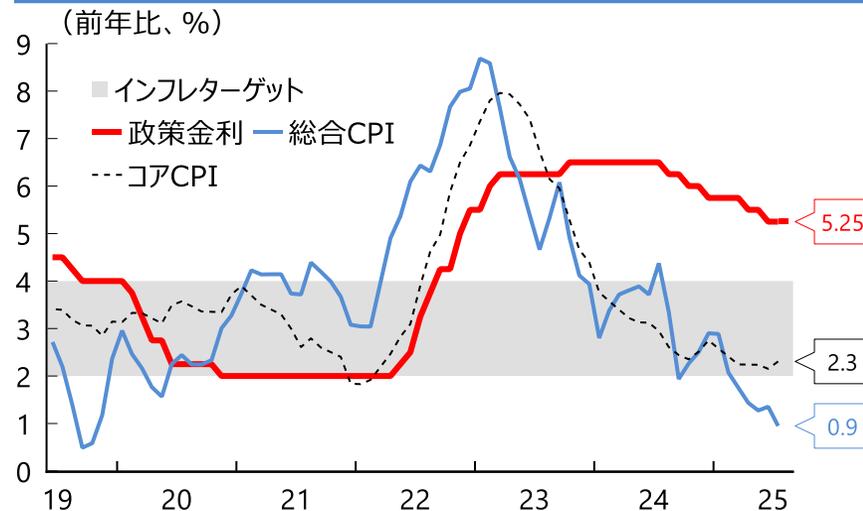
（出所） Macrobond、S&P Globalより第一生命経済研究所作成

## PMI



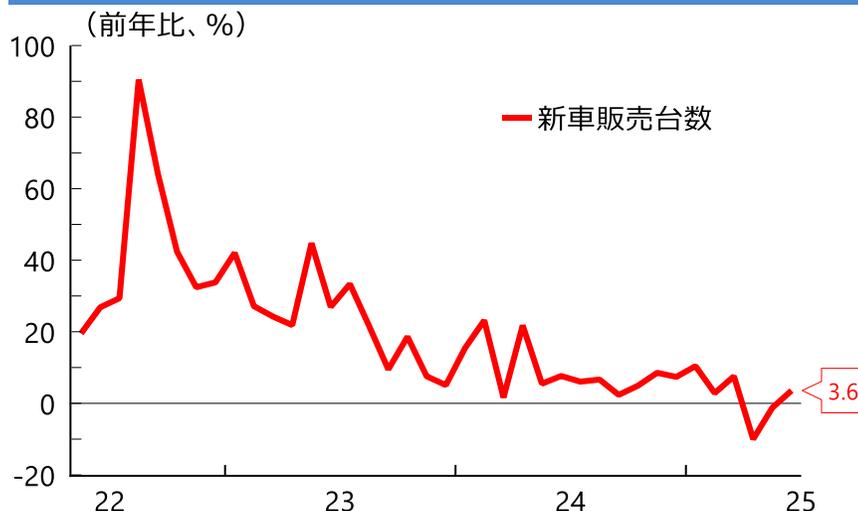
（注）直近は7月。

## インフレ率と政策金利



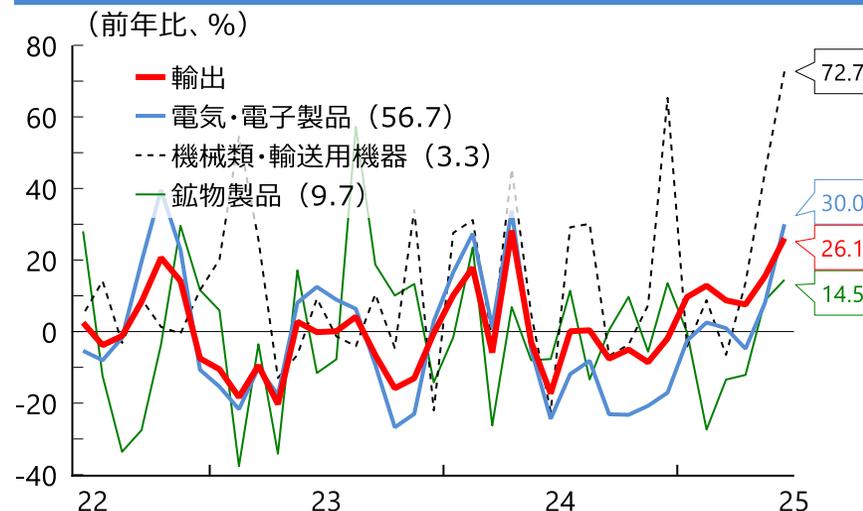
（注）直近は政策金利が8/15日、その他が7月。

## 国内消費



（注）直近は6月。

## 輸出



（注）直近は6月。 ()内は24年輸出額に占める割合。



# マレーシア

## ■ PMIは縮小ペースが鈍化

7月の製造業PMIは49.7と、前月(49.3)から縮小ペースが鈍化。雇用指数が縮小に転じたものの、新規受注指数や生産指数が幾分改善し、ヘッドラインを押し上げた。

## ■ インフレ率はわずかに鈍化

6月の総合CPIは前年比+1.1%と、前月(同+1.2%)からわずかに鈍化。交通費や燃料価格の低下が総合CPIを押し下げた。コアCPIは同+1.8と、前月から横ばいで推移。

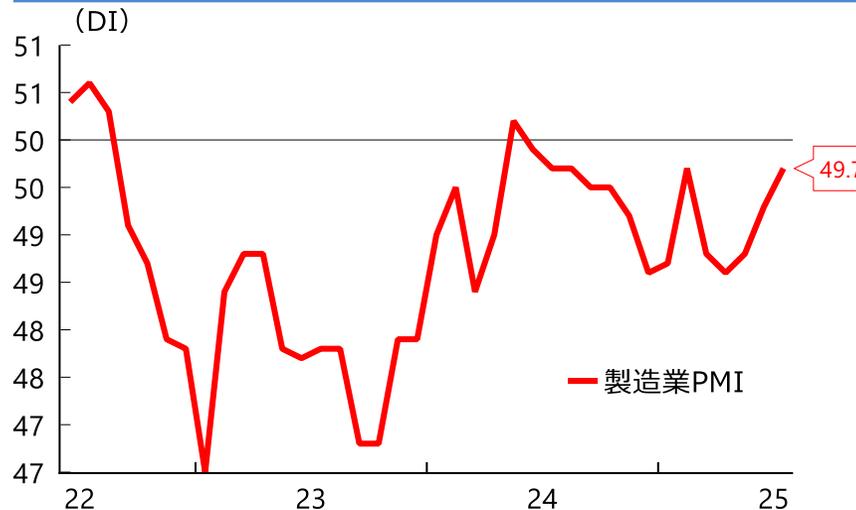
## ■ 新車販売台数は減少

6月の小売売上高は前年比+4.1%と、前月(同+3.7%)に続き増加。一方、新車販売台数は同▲5.7%と、前月(同▲3.2%)から減少ペースが加速。現地自動車協会によれば、昨年と比較して、祝日の関係で労働日数が少なかったことが影響した模様。

## ■ 輸出は引き続き減少

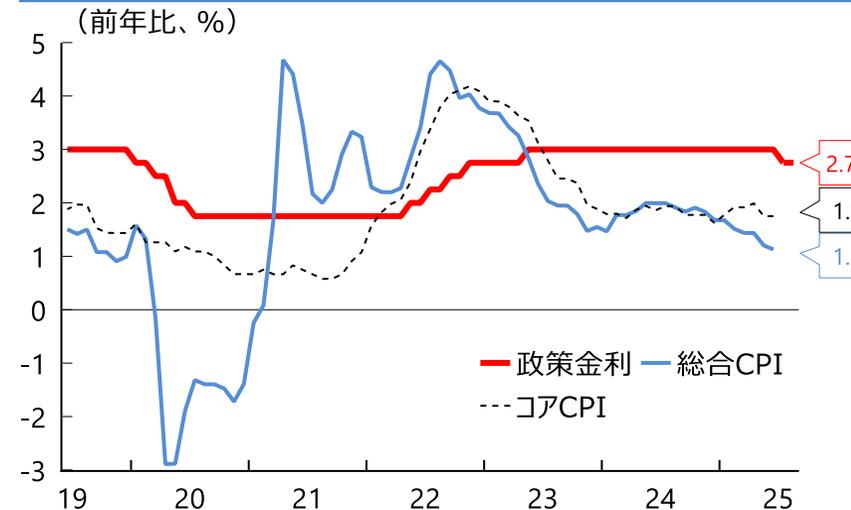
6月の輸出は前年比▲3.5%と、前月(同▲1.2%)に続き減少。主要品目である機械類・電気機器の増加ペースが鈍化。

## PMI



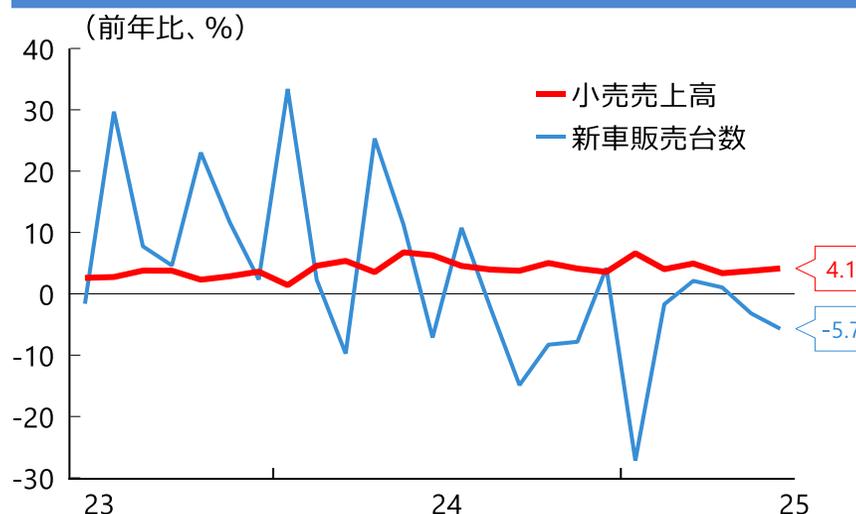
(注) 直近は7月。

## インフレ率と政策金利



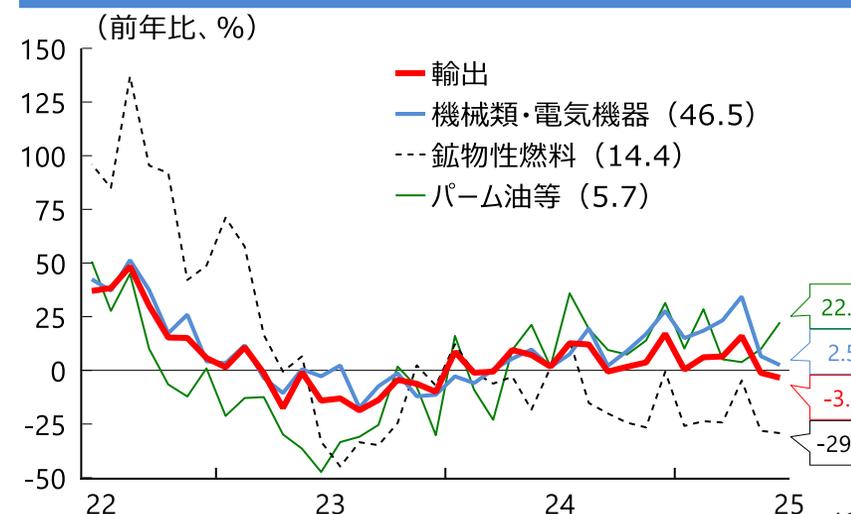
(注) 直近は政策金利が8/15日、その他が6月。

## 国内消費



(注) 直近は6月。

## 輸出



(注) 直近は6月。現地通貨建ての輸出額。( )内は24年輸出額に占める割合。



# ベトナム

## ■ PMIは拡大に転じる

7月の製造業PMIは52.4と、前月(48.9)から改善し、拡大に転じた。新規受注指数が拡大に転じるとともに、生産指数も拡大ペースが加速、ヘッドラインを押し上げた。

## ■ インフレ率は鈍化

7月の総合CPIは前年比+3.2%と、前月(同+3.6%)から伸びが鈍化。輸送費のマイナス寄与が拡大し、総合CPIを押し下げた。コアCPIも同+3.3%と、前月(同+3.5%)から伸びが鈍化している。

## ■ 消費は引き続き増加

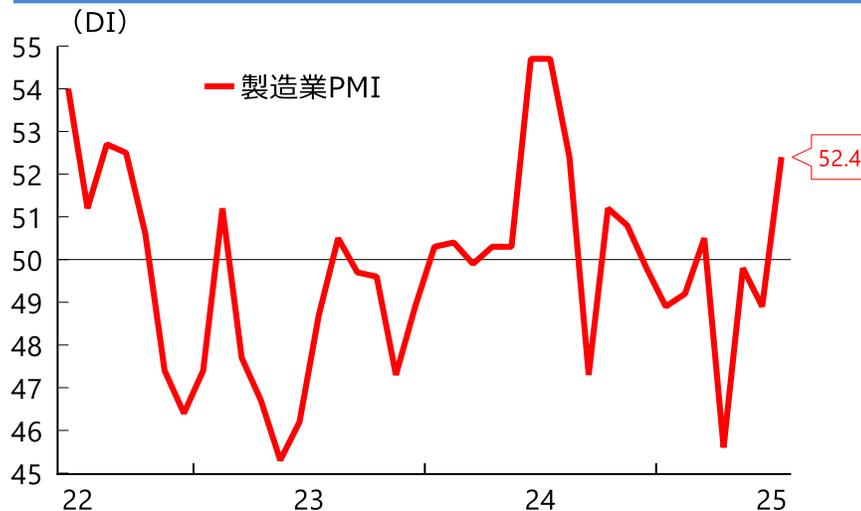
6月の小売売上高は前年比+9.4%と、前月(同+9.5%)に続き増加。7月の当局予測値は同+9.9%と、引き続き増加する見通し。6月の新車販売台数は同+7.3%と引き続き増加した。

## ■ 輸出は引き続き増加

7月の輸出は前年比+26.1%と、前月(同+24.8%)に続き増加。コンピュータ・電子製品等の増加ペースが加速し、輸出全体を牽引した。仕向け地別では、米国向けが同+26.0%と引き続き増加するもと、中国向けが同+21.2%と、前月(同+8.5%)から増加ペースが加速した。

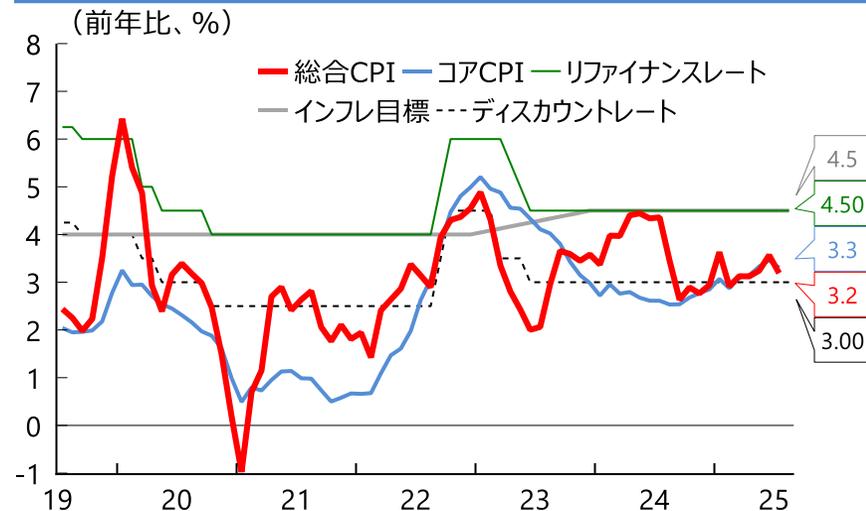
(出所) Macrobond、S&P Globalより第一生命経済研究所作成

## PMI



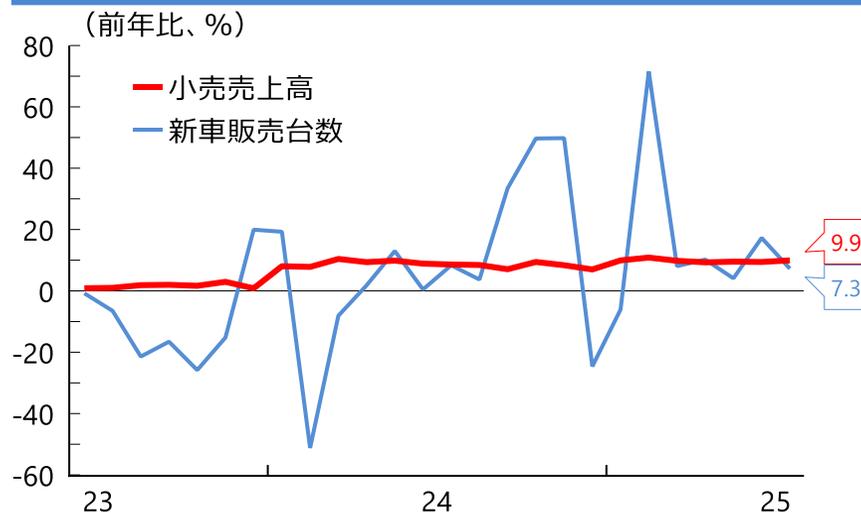
(注) 直近は7月。

## インフレ率と政策金利



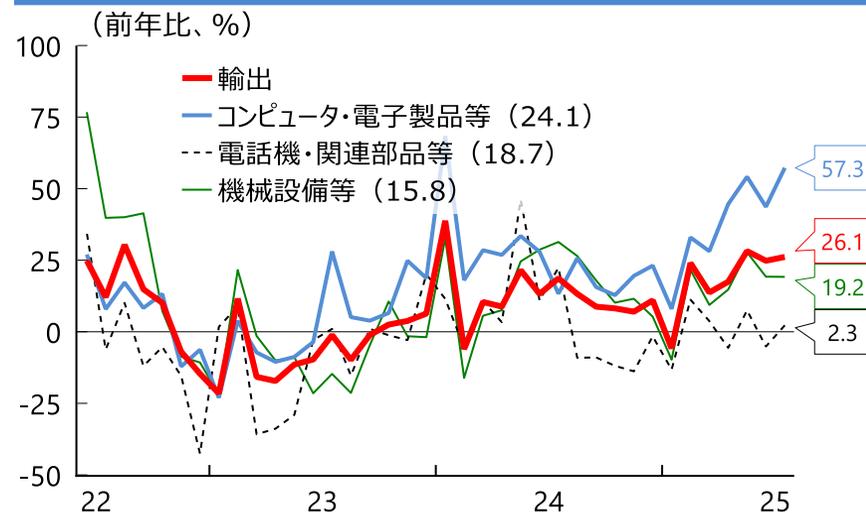
(注) 直近はリファイナンスレート、ディスカウントレートが8/15日、その他が7月。

## 国内消費



(注) 直近は7月。小売売上高の直近値は当局予測値。

## 輸出



(注) 直近は7月。米ドル建ての輸出額。( )内は24年輸出額に占める割合。



# オーストラリア

## PMIは拡大ペースが加速

7月の総合PMIは53.8と、前月（51.6）から拡大ペースが加速。サービス業PMIが54.1、製造業PMIが51.3と、それぞれ前月から拡大ペースが加速し、総合PMIを押し上げた。

## RBAは景気下支えの▲25bps利下げ

6月の総合CPIは前年比+1.9%と、前月（同+2.1%）から鈍化。輸送費が低下するもと、レクリエーションがマイナス寄与に転じ、総合CPIを押し下げた。また、RBAが政策判断の指標としている4～6月のトリム平均値は同+2.7%と、前期（同+2.9%）から鈍化した。

8月12日、RBAは利下げを決定

（▲25bps、3.85%→3.60%）。利下げは市場予想通り。背景について、「基調的なインフレ率が中期的な目標の2～3%に向かって低下しており、労働市場も若干緩和していることから、さらなる金融緩和が適切」とした。

## 消費は増加

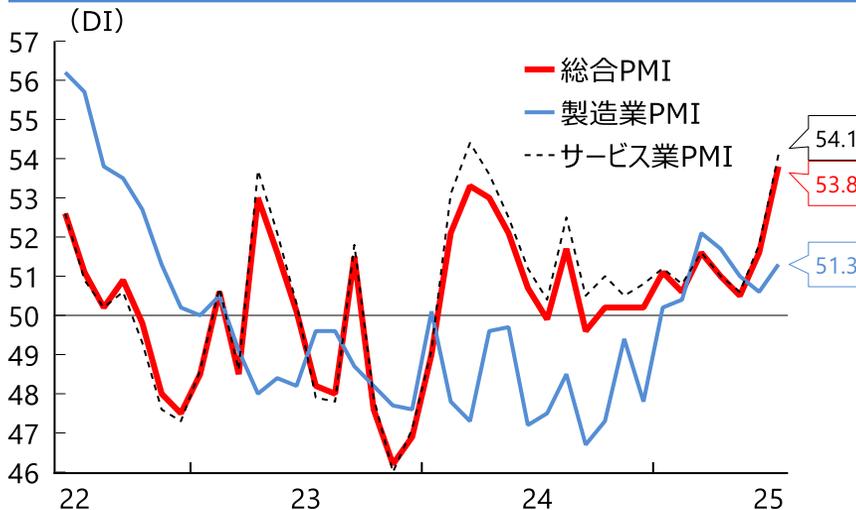
6月の実質小売売上高は前期比+1.2%、住宅着工許可件数は同+11.9%と増加。

## 輸出は増加

6月の輸出は前期比+6.0%と、前月（同▲3.0%）から増加。仕向け地別では、中国向けや米国向けが増加し、輸出を牽引した。

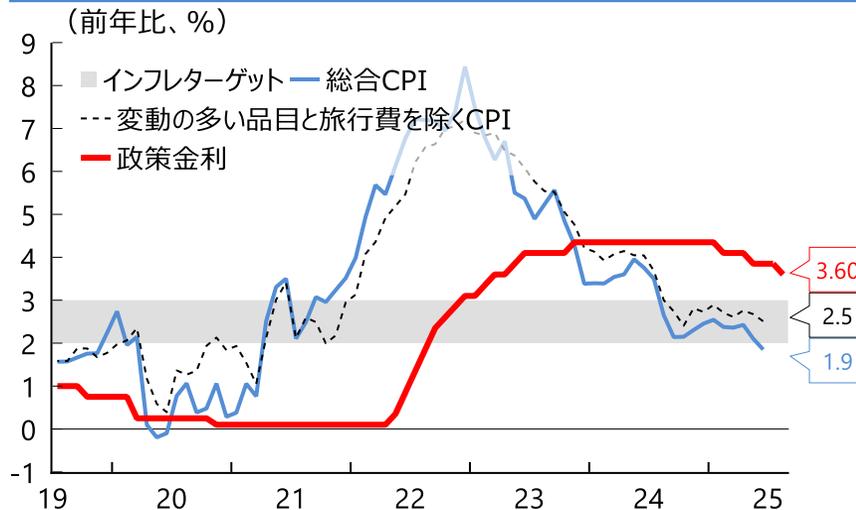
（出所） Macrobond、S&P Globalより第一生命経済研究所作成

## PMI



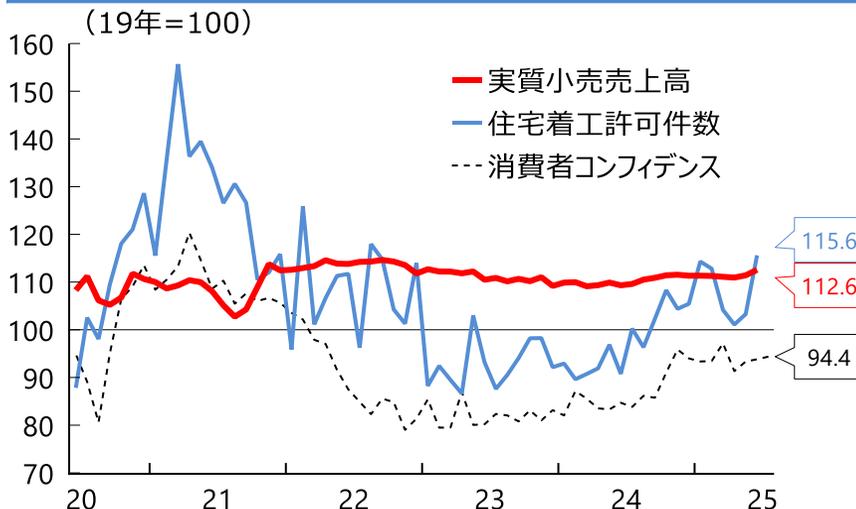
（注）直近は7月。

## インフレ率と政策金利



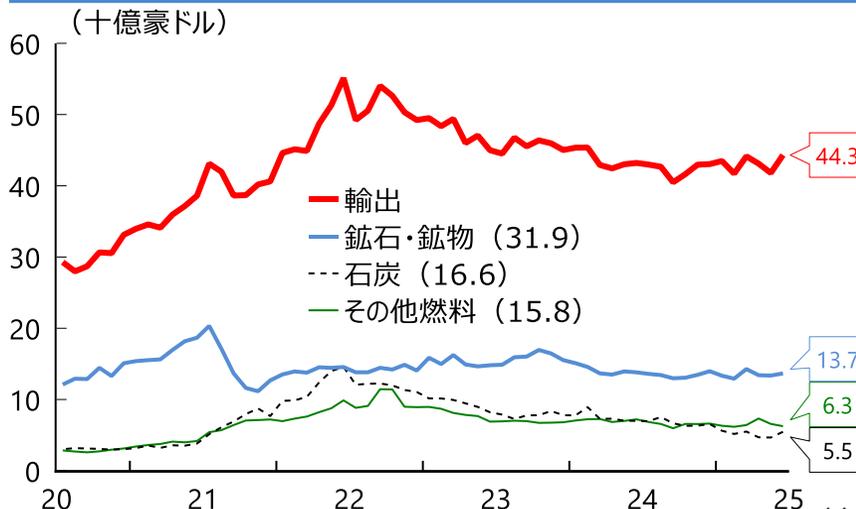
（注）直近は政策金利が8/15日、その他が6月。

## 消費と住宅投資



（注）直近は消費者コンフィデンスが7月、その他が6月。SA系列。

## 輸出



（注）直近は6月。SA系列。()内は24年輸出額に占める割合。



# ニュージーランド

## ■ 製造業PMIは拡大に転じる

7月の製造業PMIは52.8と、前月(49.2)から拡大に転じた。生産指数や雇用指数が拡大に転じ、ヘッドラインを押し上げた。

## ■ インフレ率はわずかに加速

4～6月の総合CPIは前年比+2.7%と、前期(同+2.6%)からわずかに加速。食料価格の伸びが加速し、総合CPIを押し上げた。コアCPIは同+2.7%と、前期(同+2.7%)から横ばいで推移。

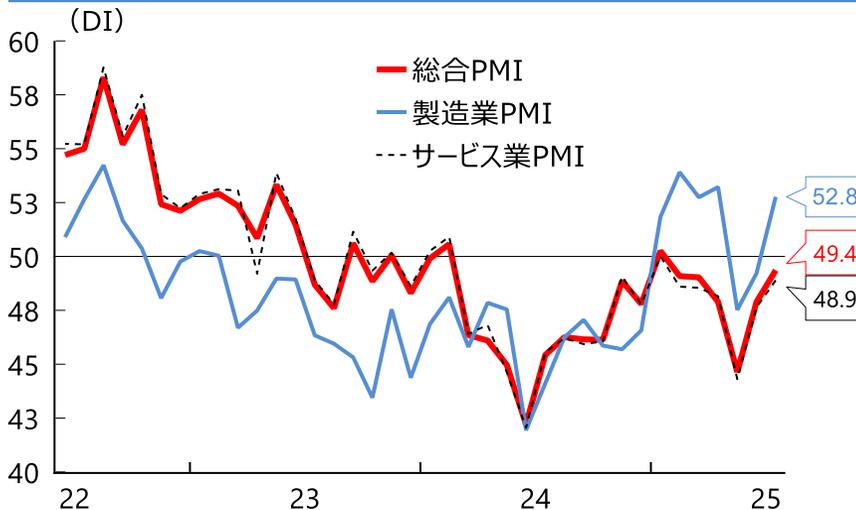
## ■ 消費は幾分増加

7月のクレジットカード等取引は前期比+0.6%と、前月(同▲0.1%)から幾分増加。消耗品や自動車関連支出がわずかに増加した。

## ■ 輸出は横ばいで推移

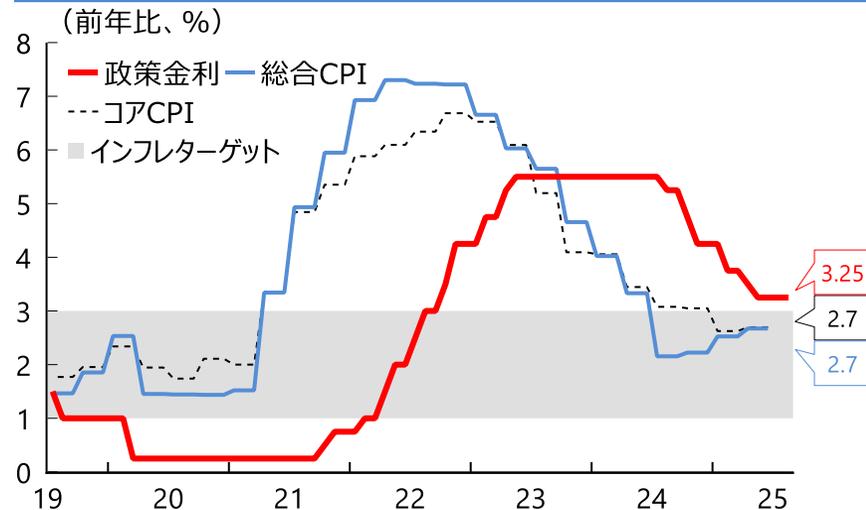
6月の輸出は前期比▲0.0%と、前月(同▲6.9%)から横ばいで推移。仕向け地別では、中国向けや米国向けが減少したものの、オーストラリア向けが増加した。

### PMI



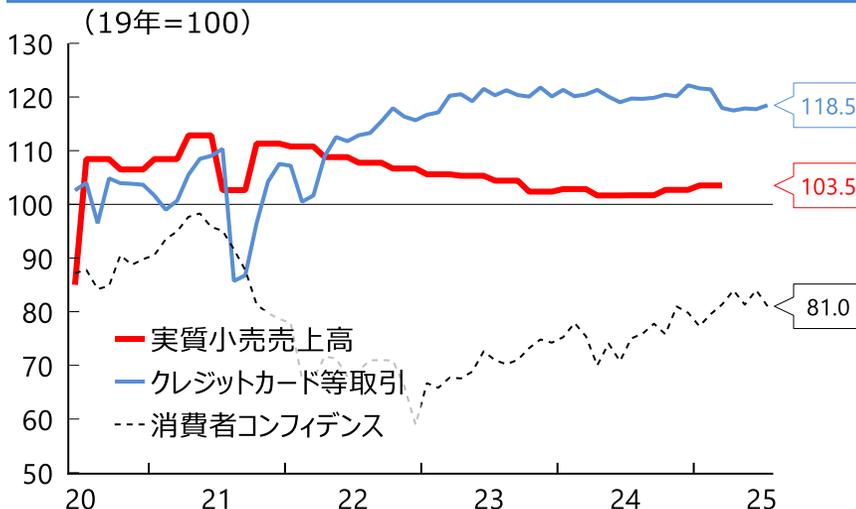
(注) 直近は製造業PMIが7月、その他が6月。

### インフレ率と政策金利



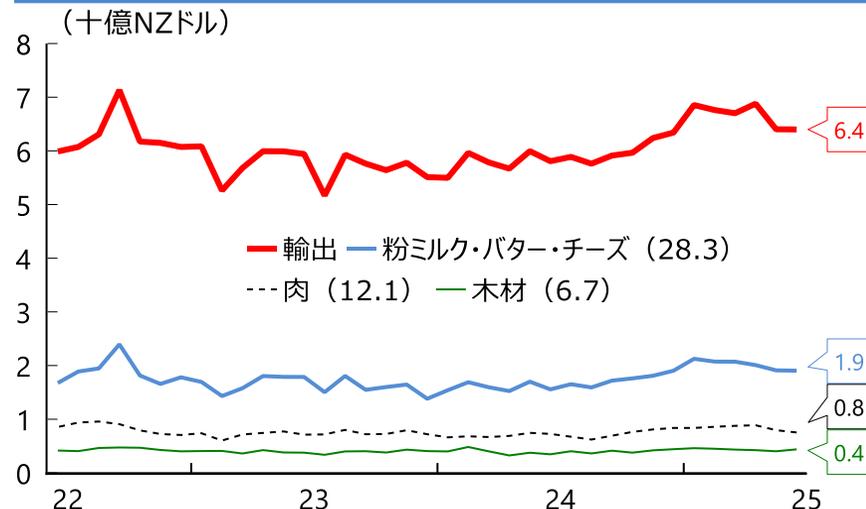
(注) 直近は政策金利が8/15日、その他が25/2Q。

### 消費



(注) 直近は小売売上高が25/1Q、その他が7月。SA系列。

### 輸出



(注) 直近は6月。SA系列。( )内は24年輸出額に占める割合。